

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.90



2021 年 6 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 理事会と定期総会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・	2
○ 第 96 回天皇杯 ファイナルラウンド結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
川崎ブレイブサンダース 7 年ぶり 4 回目の優勝	
○ 第 22 回 W リーグ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 3
○ 神田バスケットボール資料室 (2021 年 6 月)・・・・・・・・・・歴史部・・・	1 5
明治時代の女子バスケットボール事情	
○ シニアチーム紹介 STARS OF STARS・・・・・・・・・・普及部・・・	1 9
○ 会員だより	
バスケットボールコートが現代社会の課題を解決する！・・近藤 洋介・・・	2 1
○ 高校籠球ふるさと記 (熊本県編)・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・	2 8
○ 訃報・追悼文・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・	3 4
○ 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・	3 6
○ プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 7

理事会と通常総会の開催

[事務局]

令和3年度開始にあたり、渡辺理事長の挨拶を紹介し、新年度恒例の理事会と通常総会について報告すると共に、採決対象の「通常総会資料」を添付します。

渡辺理事長挨拶



日頃、日本バスケットボール振興会の活動にご理解ご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

令和2年度の事業活動は、コロナ渦の中での対応が必要になりました。

議案書の作成について、理事の皆さんの承認をいただき、続いて会員へ「令和2年度通常総会資料」送付し、同様に書面での総会の議決をいただきました。しかしコロナ禍が続き、緊急事態宣言下に、5月12日まで実質的に活動を中断しました。その後、会員の皆さんにご意見をお聞きしながら活動を進めました。

「中学生クリニック」「シニア交歓大会」「秋季講演会」についても開催を中止しました。

会報「プラザ」の発行（86号、87号、88号、89号）については、多くの会員の皆さんの協力のもと、予定通りに会報を発行でき、ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。地方の高校出身者をまとめた「高校籠球ふるさと記」は、掲載された県協会から大きな反響があり、各協会と交流を行うことが出来ました。「先人の軌跡」の内容についても、同様の反響がありました。

「神田バスケットボール資料室」の活動については、資料の収集・整理・閲覧を進めました。NHKの番組映像を発掘・保存する「番組発掘プロジェクト」（NHK アーカイブス）事業に、資料室で収集した資料・映像を提供しその活動に協力しました。

会員数の拡大に関しては、振興会の情報発信力を問われる評価の対価であると考えていますが、前年度比の会員数減となりました。賛助会員、広告協賛について、コロナ渦の影響もあり数社の辞退に至りました。

令和3年度の事業活動も、前年度同様に新型コロナウイルス感染の渦中での対応が求められます。パソコンを有効に活用し、会員との交流・連絡など効率化を図ります。会報「プラザ」の発行については内容の充実を計り、資料室については整理を進めて閲覧・公開に対応します。

理事会と通常総会

令和3年度、定例で開催される理事会及び通常総会は、新型コロナウイルス禍のため前年度に続いて書面決議となりました。

今回、会員の皆様の議決を頂く「通常総会資料」を、理事会での賛同を得て、ここに添付します。

令和3年度 通常総会資料

1. 令和2年度事業活動報告

1. 日本バスケットボール協会への協力と提言
2. バスケットボール競技団体への協力・支援
3. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
4. 組織の充実と財政の確立
5. 会員相互の交流を図る

各部	事業内容	具体的内容			実績
編集部	1 会報「バスケットボールプラザ」の発行	(1) 発行時期と主な掲載記事			計画通り実施
		No.	発行時期	主な掲載記事	高校籠球ふるさと記 No.86（兵庫県編） No.87（大阪府編） No.88（静岡県編） No.89（長野県編） を掲載する。 「先人の軌跡」 「神田バスケットボール資料室」、 「シニアチームの紹介」など各号に掲載する。
		86	令和2年6月	理事会と定期総会の開催、シニアチームの紹介、Wリーグ結果報告、「先人の軌跡・神田バスケットボール資料室」の紹介、「高校籠球ふるさと記」など	
		87	令和2年9月	下半期活動の進め方、「先人の軌跡・戦後の日本バスケットの夜明け」、「神田バスケットボール資料室」など	
		88	令和2年12月	今後の活動の進め方、「先人の軌跡・実連の誕生」、「神田バスケットボール資料室」など	
		89	令和3年2月	天皇杯・皇后杯・ウインターカップの大会情報、「先人の軌跡・牧山圭秀さん」など	
		予定された「中学生クリニック」、「秋季講演会・交流会」、「バスケットボールの日」、「シニア交歓大会」の開催報告などはコロナ禍のため未実施となり掲載せず。			
		(2) 発行部数の拡大 現状約200部から100部以上の拡大			継続努力
		(3) 広告掲載社の維持・拡大 現状6社（年間広告額28万円）の維持・拡大			コロナ禍の影響により6社から3社に減

各部	事業内容	具体的内容				実 績
普及部	1 シニア大会の開催と拡大	(1) 第 1 3 回シニアバスケットボール交歓大会 11月12・13日に「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催、約 2 0 0 名の参加の予定				コロナ感染影響により開催中止
		(2) 全国で開催されているシニア大会 情報収集とプラザ等での紹介				計画通り実施
	2 他団体への活動協力	(1) 「バスケットボールの日」開催協力等				開催中止
	3 中学生クリニックの開催	(1) 開催時期・地区とテーマ				コロナ感染影響により、中学生クリニックも開催は中止
		開催時期	開催地区	テーマ	参加人数	
令和 2 年 5 月		京都市	「シュートをうまくなろう」	100名		
	令和 2 年 8 月	東京都世田谷区	「シュートをうまくなろう」	100名		
	(注) 参加人数は前年度実績					
		(2) 検討課題 クリニックの内容を集約し中学生のコーチ・選手等に紹介するツールを検討				継続努力
歴史部	1 歴史的データの収集と整理	(1) 日本バスケットボールの歴史的資料のアウトプットの具体的方法を検討				継続努力
		(2) 神田バスケットボール資料室の資料の公開と閲覧の実施				計画通り実施
		(3) J B A 90周年の歴史のトピックスを整理する				計画通り実施
事務局	1 振興会活動の運営の支援と効率化を計る	(1) 理事会、総会、講演会等の事務連絡及び振興会の活動の円滑化を図る				講演会開催中止
		(2) 「神田バスケットボール資料室」を新設				計画通り実施
		(3) 会員数及び賛助会員（7 社）の維持拡大				継続努力
		(4) 「プラザ購読会員」の新規会員獲得に努力する				継続努力
		(5) 地方協会の「プラザ購読一部負担金」増加を計る				継続努力
		(6) ホームページ・メルマガなどによる情報発信				計画通り実施

令和2年度 会員動向

	令和元年度末 (令2.3.31)	令和2年度末 (令3.3.31)	増 減	備 考
個 人	165名	152名	▲13名	新規会員 5名 退 会 者 18名（内 逝去者2名 2年以上会費未納者4名）
賛助会員	7社	7社		

2. 令和2年度特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：円)

科 目	2年度予算	2年度決算	増 減	備 考
I 経常収支の部				
1. 経 常 収 入				
(1)会費収入				
正会員会費	1,400,000	1,195,000	▲ 205,000	
賛助会員会費	350,000	300,000	▲ 50,000	
個人購読会員		2,000	2,000	
会費収入計	1,750,000	1,497,000	▲ 253,000	
(2)事業収入				
広告掲載料	300,000	150,000	▲ 150,000	
月刊BB負担金	300,000	212,000	▲ 88,000	
各種販売益	0	15,346	15,346	
交流会・講演会	10,000	0	▲ 10,000	
シニア大会	300,000	0	▲ 300,000	
そ の 他	0	14,000	14,000	
事業収入計	910,000	391,346	▲ 518,654	
(3)寄 付 金	188,000	270,000	82,000	
(4)雑 収 入	42,000	32,027	▲ 9,973	
(5)受取利息	0	23	23	
経常収入計	2,890,000	2,190,396	▲ 699,604	
2. 経 常 支 出				
(1)事 業 費				
広報・啓発活動費	1,126,000	906,059	▲ 219,941	
普及支援活動費	322,000	10,000	▲ 312,000	
協力及び提言活動費	0	0	0	
調査・研究活動費	80,000	100,388	20,388	
その他活動費	50,000	55,000	5,000	
事業費計	1,578,000	1,071,447	▲ 506,553	
(2)管理費				
会議費	40,000	733	▲ 39,267	
通信費	150,000	84,876	▲ 65,124	
水道光熱費	60,000	42,641	▲ 17,359	
事務所借用費	660,000	662,388	2,388	
租税公課	0	0	0	
雑 費	0	10,000	10,000	
その他事務所運営費	400,000	298,136	▲ 101,864	
管理費計	1,310,000	1,098,774	▲ 211,226	
経常支出計	2,888,000	2,170,221	▲ 717,779	
3. 経常収支差額	2,000	20,175	18,175	
II その他資金収支の部				
1. その他資金収入				
その他資金収入計	0	0	0	
2. その他資金支出				
その他資金支出計	0	0	0	
当期収支差額	2,000	20,175	-	
前期繰越収支差額	589,899	589,899	0	
次期繰越収支差額	591,899	610,074	18,175	

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

(財産目録)

2021 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	14,229		
ゆうちょ銀行	143,998		
三菱UFJ銀行	147,099		
みずほ銀行	104,312		
流動資産合計		409,638	
2. 固定資産			
三菱UFJ・定期預金	200,436		
固定資産合計		200,436	
資産合計			610,074
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			610,074

3. 令和2年度監査報告

監査報告書

令和3年6月15日

特定非営利活動法人 日本バスケットボール振興会の令和2年度(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)の業務監査及び会計監査を実施した。

監査の結果当法人の業務は法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理はNPO法人会計基準及び一般に公正妥当と認められる会計の方法によって適正に処理されているものと認められた。

上記期間に係る同法人の事業報告書及び計算書類が、業務執行の状況及び令和3年3月31日における財産の状況を適正に表示しているものと認める。

● 黒川 敬雄
● 都府 修男

4. 令和3年度事業活動計画（案）

1. （公財）日本バスケットボール協会への協力と提言
2. バスケットボール競技団体への協力・支援
3. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
4. 組織の充実と財政の確立
5. 会員相互の交流を図る

各部	事業内容	具体的内容			備考
編集部	1. 会報「バスケットボールプラザ」の発行	(1)発行時期と主な掲載記事（予定）			
		No.	発行時期	主な掲載記事	
		90	令和3年 6月	理事会と定期総会開催、シニアチームの紹介、Wリーグ、「先人の軌跡」、「神田バスケットボール資料室」の紹介、「高校籠球ふるさと記」（熊本県編）など	
		91	令和3年 8月	「先人の軌跡」、「神田バスケットボール資料室」、シニアチームの紹介、「高校籠球ふるさと記」（福井県編）など	
		92	令和3年 11月	秋季講演会、交流会開催、Bリーグ・Wリーグなど大会情報、「先人の軌跡」、「神田バスケットボール資料室」、シニアチームの紹介、「高校籠球ふるさと記」（岩手県編）など	
		93	令和4年 2月	天皇杯、皇后杯、Wリーグ・ウインターカップなど大会結果、「バスケットボールの日」・「シニア交歓大会」開催報告、シニアチームの紹介、「高校籠球ふるさと記」（宮城県編）など	
		(2)発行部数の拡大			
		(3)広告掲載社の維持・拡大			

各部	事業内容	具体的内容	備 考
普及部	1. シニア大会の開催と拡大 2. 他団体への活動協力	(1)第13回シニアバスケットボール交歓大会を令和4年2月3・4日に「代々木第二体育館」で開催、約200名の参加予定 (2)全国で開催されているシニア大会の情報収集とプラザ等での紹介 (3)「バスケットボールの日」開催協力等	
歴史部	1. 歴史的データの収集と整理	(1)日本バスケットボールの歴史的資料のアウトプットの具体的方法を検討 (2)神田バスケットボール資料室の資料の公開と閲覧の実施 (3)JBA100周年の歴史のトピックスを整理する (4)NHKの番組映像・保存事業に協力（NHKアーカイブス）	
事務局	1. 振興会活動の運営の支援と効率化を計る	(1)理事会、総会、講演会等の事務連絡及び振興会の活動の円滑化を図る (2)「神田バスケットボール資料室」活動 (3)会員数及び賛助会員の維持拡大 (4)「プラザ購読会員」の新規会員獲得に努力する (5)地方協会の「プラザ購読一部負担金」増加を計る (6)ホームページ・メルマガなどによる情報発信	

（参考）「神田バスケットボール資料室」の概要

日本のバスケットボール官益の資料を収集し「先人の軌跡」である歴史的資料を次世代へつなげ、次の3つの区分として資料の充実と検索・整備を図る。

- 1) バスケットボールの発行物
- 2) 個人所有の収集物の保管
- 3) バスケットボール関係の大会記念品、参加章等

5. 令和3年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書（案）

令和3年4月1日～令和4年3月31日

（単位：円）

科 目	2年度予算	2年度実績	3年度予算	対2年度予算比	対22年度実績比	備 考
I 経常収支の部						
1. 経 常 収 入						
(1)会費収入						
正会員会費	1,400,000	1,195,000	1,300,000	▲ 100,000	105,000	
賛助会員会費	350,000	300,000	250,000	▲ 100,000	▲ 50,000	
個人購読会員		2,000				
会費収入計	1,750,000	1,497,000	1,550,000	▲ 200,000	53,000	
(2)事業収入					0	
広告掲載料	300,000	150,000	100,000	▲ 200,000	▲ 50,000	
月刊BB負担金	300,000	212,000	260,000	▲ 40,000	48,000	
各種販売益	0	15,346	0	0	▲ 15,346	
交流会・講演会	10,000	0	10,000	0	10,000	
シニア大会	300,000	0	430,000	130,000	430,000	
そ の 他	0	14,000	0	0	▲ 14,000	
事業収入計	910,000	391,346	800,000	▲ 110,000	408,654	
(3)寄 付 金	188,000	270,000	270,000	82,000	0	
(4)雑 収 入	42,000	32,027	44,000	2,000	11,973	
(5)受取利息	0	23	0	0	▲ 23	
経常収入計	2,890,000	2,190,396	2,664,000	▲ 226,000	473,604	
2. 経 常 支 出					0	
(1)事 業 費					0	
広報・啓発活動費	1,126,000	906,059	924,000	▲ 202,000	17,941	
普及支援活動費	322,000	10,000	450,000	128,000	440,000	
協力及び提言活動費	0	0	0	0	0	
調査・研究活動費	80,000	100,388	80,000	0	▲ 20,388	
その他活動費	50,000	55,000	50,000	0	▲ 5,000	
事業費計	1,578,000	1,071,447	1,504,000	▲ 74,000	432,553	
(2)管理費					0	
会議費	40,000	733	40,000	0	39,267	
通信費	150,000	84,876	150,000	0	65,124	
水道光熱費	60,000	42,641	60,000	0	17,359	
事務所借用費	660,000	662,388	660,000	0	▲ 2,388	
租税公課	0	0	0	0	0	
雑 費	0	10,000	0	0	▲ 10,000	
その他事務所運営費	400,000	298,136	250,000	▲ 150,000	▲ 48,136	
管理費計	1,310,000	1,098,774	1,160,000	▲ 150,000	61,226	
経常支出計	2,888,000	2,170,221	2,664,000	▲ 224,000	493,779	
3. 経常収支差額	2,000	20,175	0	▲ 2,000	▲ 20,175	
II その他資金収支の部						
1. その他資金収入					0	
その他資金収入計	0	0	0	0	0	
2. その他資金支出					0	
その他資金支出計	0	0	0	0	0	
当期収支差額		20,175	0	0	▲ 20,175	
前期繰越収支差額		589,899	610,074	610,074	20,175	
次期繰越収支差額		610,074	610,074	610,074	0	

6. 定款変更（案）

条 項	現 行	変 更（案）
（議事録） 第 2 8 条 2 項 （総会）	議事録には、その会議において出席した正会員の中から選任された議事録署名人 2 名以上が、議長とともに <u>署名捺印</u> しなければならない。	議事録には、その会議において出席した正会員の中から選任された議事録署名人 2 名以上が、議長とともに <u>記名押印</u> しなければならない。
（議事録） 第 3 6 条 2 項 （理事会）	議事録には、その会議において選任された議事録署名人 2 名以上が、 <u>署名捺印</u> しなければならない。	議事録には、その会議において選任された議事録署名人 2 名以上が、 <u>記名押印</u> しなければならない。

第 96 回天皇杯ファイナルラウンド結果

川崎ブレイブサンダース 7 年ぶり 4 回目の優勝

[編集部]

今年度開催の「第 96 回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会」は、昨今の新型コロナウイルス感染症の全国的感染拡大状況等を鑑み、今年度に限り大会方式を一部変更(規模縮小)して開催された。

ファイナルラウンド皇后杯は昨年 12 月に終わっており、天皇杯決勝がこの 3 月に開催されたので、皇后杯とは別に報告することとなった。

天皇杯出場の全チーム名は 11 月 28 日 (土) ～11 月 29 日 (日)に開催の 1 次ラウンド (1 ～ 2 回戦) 勝敗結果を参照されたい。

ファイナルラウンド

準決勝・決勝は 3 月 12 日(金)～13 日(土)にさいたまスーパーアリーナで開催された。

準決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
アルバルク東京	11	13	15	15	54
宇都宮ブレックス	15	16	14	19	64

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
川崎ブレイブサンダース	22	23	14	20	79
シーホース三河	11	19	16	21	67

決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
宇都宮ブレックス	20	14	14	12	60
川崎ブレイブサンダース	19	22	17	18	76

決勝戦は偶然にも昨年度大会の準決勝と同じ顔合わせとなったが、結果は昨年度と同様に川崎が宇都宮を圧倒した。

出だし第 1 クォーターではお互いに様子を見ながらゲームに入ったせいか、戦い方やシュート、ディフェンスに至るまでほぼ互角の展開だった。

しかし第 2 クォーターに入ると互角だった展開が一変する。宇都宮の遠藤や比江島のシュートが順調とみたのか、川崎のディフェンスが一挙に厳しくなり、これらシューターにいいタイミングでボールが回らなくなった。

一方の川崎はボールがよく回りアウトから増田や辻の 3 P シュートが決まるとともに、インサイドにこだわらない機敏な動きから得点を重ね、一挙にリードを広げる。

センターのファジーカスにボールが入ると、宇都宮のディフェンスがファジーカスの動きを止めようとする。すると他の選手がゴールに向かって走りこみ、得点するパターンが

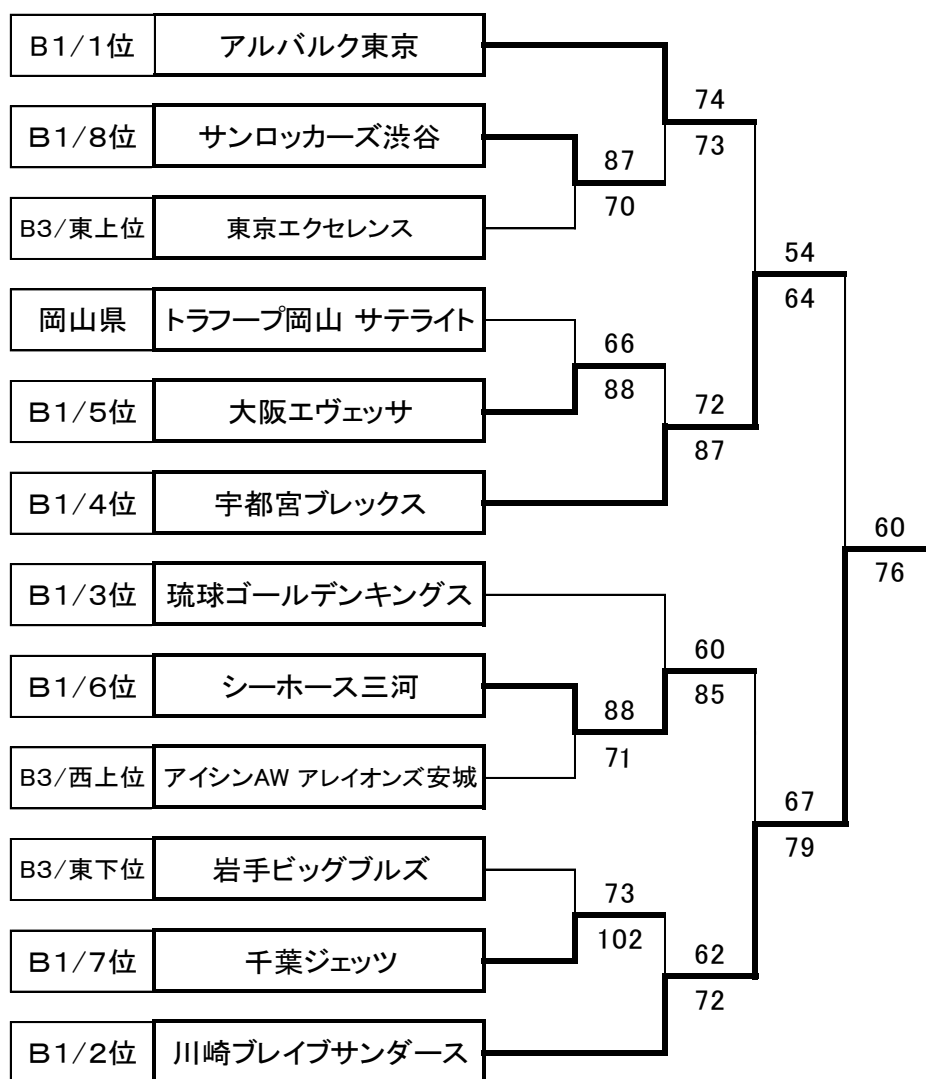
何度も見られた。センターのファジーカスが6個のアシストを記録していることから全員バスケットが徹底していたといってよいだろう。

この展開が最後まで続き、終わってみれば16点という大差をもって川崎が勝利した。川崎はメンバーが変わっても、すべての選手が執拗なディフェンスを続けた結果、宇都宮のシュートミスを誘い、外れたボールを確実にリバウンド、オフェンスでは肝心のところで辻のシュートが冴えて第2クォーター以降一度もリードを許すことなく快勝した。

データから見ても、2Pシュートは互角だが3Pシュートに勝敗が表れている。宇都宮が29本打って8本の成功だったことに対し、川崎は26本中11本の成功を得ている。3Pシュートの成功が3本多いということは、単純計算で9点の差となり、これにディフェンス・リバウンドを加えると、川崎が5個勝っていてその差はさらに大きく勝敗に影響する。

大会終了後、川崎の主将、篠山が「全員でディフェンスとリバウンドを徹底的に頑張ろうと選手で話し合った」とコメントしたが、選手同士が話合ったことをオンザコートで実践したことが勝利につながった試合となった。

2次ラウンド以降・ファイナルラウンドまでの結果



第 22 回Wリーグ情報

[編集部]

今回の第 22 回バスケットボール女子日本リーグ(WJBL)は 2020 年 9 月 18 日から始まったが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、従来と異なる試合形式となったので、その概要と結果について報告する。

・レギュラーシーズン

レギュラーシーズンは、全チームの 2 回戦総当たり対戦ではなく、初めての試みとなる「東西カンファレンス制」で行った。すなわち、東西カンファレンス内の各 6 チームにより 4 回戦総当たり（合計 120 試合、チームあたり 20 試合）で行う方式となった。

また、同一試合会場で 1 日 3 試合行うことによりチームの移動を少なくし、新型コロナウイルス感染症対策とした。

【東地区】（イーストカンファレンス 6 チーム）

1 位	ENEOS サンフラワーズ	15 勝 1 敗 (勝点 31)
2 位	富士通 レッドウェーブ	12 勝 4 敗 (勝点 28)
3 位	日立 ハイテク クーガーズ	10 勝 6 敗 (勝点 26)
4 位	シャンソン化粧品 シャンソン Vマジック	7 勝 9 敗 (勝点 23)
5 位	東京羽田 ヴィッキーズ	3 勝 13 敗 (勝点 19)
6 位	新潟 アルビレックス BB ラビッツ	1 勝 15 敗 (勝点 17)

注) 新型コロナウイルス感染症禍により最後の 4 試合（1 月 9、10 日、15 日、16 日）が中止になり無効試合となった。

【西地区】（ウェスタンカンファレンス 6 チーム）

1 位	トヨタ自動車 アンテロープス	17 勝 3 敗 (勝点 37)
2 位	デンソー アイリス	16 勝 4 敗 (勝点 36)
3 位	三菱電機 コアラーズ	15 勝 5 敗 (勝点 35)
4 位	トヨタ紡織 サンシャイン ラビッツ	8 勝 12 敗 (勝点 28)
5 位	アイシン・エイ・ダブリュウ イングス	3 勝 17 敗 (勝点 23)
6 位	山梨 クイーンビーズ	1 勝 19 敗 (勝点 21)

・表彰者

MVP

岡本彩也花（ENEOS #11、初受賞）

ベスト 5

ガード	宮崎早織	（ENEOS #32、初受賞）
ガード フォワード	渡邊亜弥	（三菱電機 #45、3 年連続 3 回目）
フォワード	赤穂ひまわり	（デンソー #88、初受賞）
センター フォワード	谷村里佳	（日立 ハイテク #11、初受賞）
センター	高田真希	（デンソー #8、5 年連続 9 回目）

ベストディフェンダー 岡本彩也花 (ENEOS#11、初受賞)
 ベスト6thマン 馬瓜ステファニー (トヨタ自動車#33、2年連続2回目)
 ルーキーオブザイヤー 平末明日香 (トヨタ紡織#13)
 コーチオブザイヤー 梅崎英毅 (ENEOS、初受賞)
 レフリーオブザイヤー <選出せず>

・プレイオフ

- ・セミクォーターファイナル (2021年3月6日、スカイホール豊田)
 - 日立ハイテク 44-67 トヨタ紡織
 - 三菱電機 73-70 シャンソン
- ・クォーターファイナル (2021年3月7日、スカイホール豊田)
 - 富士通 72-57 トヨタ紡織
 - デンソー 66-54 三菱電機
- ・セミファイナル (国立代々木競技場 第二体育館)
 - 2021年3月14日 (第1戦)
 - トヨタ自動車 79-56 富士通
 - ENEOS 73-72 デンソー
 - 2021年3月15日 (第2戦)
 - トヨタ自動車 61-58 富士通
 - ENEOS 69-67 デンソー
- ・ファイナル (国立代々木競技場 第二体育館)
 - 2021年3月20日 (第1戦)
 - ENEOS 66-71 トヨタ自動車
 - 2021年3月21日 (第2戦)
 - ENEOS 60-70 トヨタ自動車

ファイナル2戦はトヨタ自動車が、リバウンド 105 (OFF:36、DEF69)でENEOS 79 (OFF:21、DEF:58)を制し、2連勝で初優勝を勝ち取った。 MVPには AST:20、PTS:24を記録した安間志織が選出された。

・表彰者

MVP 安間志織 (トヨタ自動車#15、初受賞)

ベスト5 馬瓜エブリン (トヨタ自動車#0)、
 長岡萌英子 (トヨタ自動車#2)、
 安間志織 (トヨタ自動車#15)、
 岡本彩也花 (ENEOS#11)、
 宮崎早織 (ENEOS#32)



© JBBS 安間選手

神田バスケットボール資料室（2020 年 6 月）

明治時代の女子バスケットボール事情

[歴史部]

日本バスケットボール振興会は、過去に発行された団体・出版物のほか、日本のバスケットボールの歴史を伝える貴重な資料・記録などを収集・整理・保管し閲覧可能にしている。すなわち、過去のことを考え極め、現在および未来のことを考える資料として後世に伝えることを目的とした活動である。

今回は、明治時代に行われていた女子バスケットボールに関して、当時の資料・新聞記事からその内容を紹介する。

1891 年 12 月 21 日にバスケットボール競技が初めて行われた。この時代のアメリカの女性スポーツに対する社会的な考え方もあり、また、バスケットボールを荒っぽいゲーム（roughgame）と呼び、スポーツ生理学や心理学の見地から女性には適さないのではないかとの批判を受けていた。従って、初期の頃、女子のバスケットボールは女子専用のルールであった。女子大学の体育担当インストラクターのベアー（C. Bare）が女性向けに〈3 区画コート制〉のバスケットボールのルールを発案し、女子に受け入れられていった。

1976 年モントリオールオリンピックに女子のバスケットボールが競技に採用されることが決まるまで、アメリカでは〈3 区画コート制〉の女子バスケットボールが行われていた。

日本で初めて学校の体育でバスケットボールを採用したのは成瀬仁蔵であるといわれている。バスケットボールの競技が創案されて、女子向けとして〈3 分割コート〉のバスケットボールが考案された。成瀬仁蔵は、日本女子大学の体育の授業にバスケットボールを採用した。20 人対 20 人に分かれ、自陣の竹竿の上につけられた籠にボールを多く投げ込む「日本式バスケットボール」である。



日本女子大学校附属高等女学校生徒西洋式バスケットボール

梅花女学校、ウキルミナ女学校、神戸女学院などミッション系女子高では、アメリカ人女性教師の指導の下に6人対6人のバスケットボール対抗戦が行われた。

現在、多くの国で行われている「ネットボール」はイギリスで誕生したもので、7人対7のパスのみでボールを運ぶなどのルールは、日本女子大学の「日本式バスケット」同様であるが、通常のバスケットボールのルールとは異なる。

以下に、明治時代の日本の女子バスケットボール関連記事を紹介する。

日本女子大学の運動会の始まり「乙女の合戦」(婦女新聞 12月28日)

日本女子大学が創立された1901年(明34)12月22日に第1回運動会が開催され、約100人の女子学生が入り乱れたバスケットボール試合が行われた様子が伝えられている。翌年(1902)の秋、第2回運動会が行われ、女子の体育教育が浸透されていなかった時代に自転車競技やバスケットボールなどの新しいスポーツを行う女子学生の姿が、世間の注目を集めたことなどが報道されている。

1903年(明37)12月 「日本女子大学校 学報 第4号」

バスケットボールは、今を去ること12年前、即ち1892年(誤り)米国マサチューセッツ州スプリングフィールドの万国青年会附属体操学校教諭ジェームズ・ネイスミス(現任カンサス大学)の創意になり、始めは各地の青年会の運動場にのみ行われしが、大学においてはエール他に率先して之を採用せしより、漸く広く行われるに至れり、其の最も盛んになれるは6年以來のことなり、1899年大学バスケットボール同盟会の組織成るに及び、規約も茲に一定し愈々旺盛を究るに至り(中略)

スミス女子大学の体操学部長センダベレンソン曰く「バスケットボールが女子に取り、他の体操に増して、価値の大なるは明らかにして、形体上また道德上の勇気を振作し、自恃自製の徳を養はしめ、また泰然として成功と失敗とに虚する力をとくせしむなり」「女子遊戯書」の著者バームリパレットも「この種の競技は、個々の利益を共同の利益の内に、埋没し去り、個人の利益の内に、埋没し去り、個人の利を殺いで団体の益を計るものなれば、動もすれば女子において欠点たる「相タスケ相スクウ」の精神を養成する利益あり」と語っている。

この技は極めて簡単なるものなれど、体育上(殊に肺と心臓とを強くすと米国の教育家は云えり)また徳育上に其裨益少なからず。本邦各地の女学校に於いても之を採用せられんことを切望するなり。(中略)

米国式のも時に之を試むるを考へるも、現行のものは、次の規則の如く、大に本稿の更訂を加へしなり。(以下略)

課外活動として「バスケットボール会」などの体育会結成

(「2005. 9. 24~12. 17 日本女子大学の運動会展資料」より)

日本女子大の運動会の花「日本式バスケットボール」は、日本女子大学独自のもので、明治37年当時、20対20の総勢40名で行われ、竹竿に取り付けられたゴールは選手が持ち、5.5メートルほどのひもで杭に結ばれていた。コートは3区域に分割され、チームも3つに分かれ、それぞれの区域から出てはならないとし、ボールを取ったらすぐ投げるルールとなっていた。当時女性用にルールを変更したアメリカのものに似ているが、日本式は自分側のゴールに入れることであった。日本で初めて学校の体育でバスケットボールを採用したのは成瀬仁蔵(注)であるといわれている。

1906 年（明 39）「心理的分類遊戯法」川瀬元九郎著 4 月 1 日発行

（アメリカのアーノルド博士の心理的分類法に準じて遊戯を 10 分類した内容の著書）

バスケットボールは、「決断を要する遊戯」に分類され、準備、演技、演技規則などの項目に分けて図説している。1908 年（明 41）4 月大森兵蔵アメリカから帰国後、東京 YMCA の体育主事となる。東京 YMCA 会館の裏庭にバスケットボールコートを設置し、指導を始める。7 月大森兵蔵、日本女子大非常勤講師となり、2 年間体育の授業を指導する。

1909 年（明 42）12 月 11 日 毎日新聞

『梅花女学校 14（8-2、6-2）4 ウキルミナ女学校 於梅花女学校校庭』

1 日午後 3 時から梅花高等学校の校庭で同校対ウキルミナ女学校生徒のバスケットボール競技が催された。雪雲飛う垂れて身に染む嵐ものともせず選りすぐりたる両軍選手 6 名宛、梅花方は一斉に白地に丸く B と染め抜きたる筒袖のユニフォーム、白リボン白足袋に蝦茶袴の裾短く凛々しき装束、又ウキルミナは甲斐々々しくも青字を十字に縁取りていづれ劣らぬ武者振、ゴール、センター、ガードの 3 段に敵味方相並んで用意は良しと待ち構える折柄、愈々審判官として神戸女学校から招かれたホッキング女子がボールをセンターの手に置くと茲に戦端は開かれた。（中略）

4 対 14 で梅花方の大勝となった。（中略）

それから両軍選手別室に招かれて茶和会を催し両軍打ち解けて戦物語、ウキルミナ方はしきりに梅花方の功名、到底われらの如き敵ではないと賞めたつれば梅花方は自分方のコートだから勝てたのですと謙遜する。要するに、梅花方は 1 年熱心に練習を積んだがウキルミナ方は近頃中絶の有様であったから今回の敗北は致し方なかろう。何しろ大阪には初めての対抗競技で如何にも華々しく珍しい清興であった。明年からは屢々競技を催すそうだが梅花軍は本年中に神戸へ遠征し斯道の先輩たる同地の女学院と試合をやるそうだ。女子間にも斯かる遊戯の益々伝播せんことを希望する。

1910 年（明 43）2 月 5 日 毎日新聞

『梅花女学校 7（4-4、3-8）12 神戸女学院 於神戸女学院運動場』

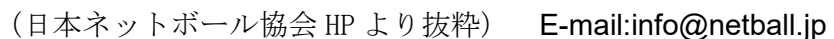
昨冬バスケットボールに於いてウキルミナ女学校に勝利を博したる大阪梅花女学校選手、5 日神戸に赴き午後 2 時 25 分より同地オーソリチーたる神戸女学院選手と同校運動場で試合を行う。

3 月 12 日 毎日新聞

『梅花女学校 14-10 ウキルミナ女学校 於ウキルミナ女学校校庭』

大阪市梅花・ウキルミナ両女学校生徒は 12 日午後 11 時（誤り）よりウキルミナ方校庭において第 2 回バスケットボール競技を催す。ウキルミナ方は会稽の恥を雪がんとて新鋭チームを編成し奮闘大に力めたるが梅花方老巧して 10 対 14 にて又も勝利は梅花方に帰せり、時に午後 0 時 15 分。

ネットボールは、女性向けバスケットボールとしてイギリスに誕生し、コートは大きく3つに区切られ、1チーム7名からなる2組のチームがパスのみでボールを自分のゴールへ運び、得点を争う。現在は、イギリス連邦諸国を中心に80を超える国と地域でプレイされており、競技人口は2000万人を超えている。日本では、1990年に生涯スポーツが専門の神山雄一郎氏（元・群馬女子大学教授）が研修先のオーストラリアから持ち帰り紹介・普及を始めた。1999年から日本選手権が開催され、男子も含め徐々に競技人口を増やしている。



バスケットボール（男子）は、各地のYMCAでバスケットボールが行われ、大学、実業団チームへと広まり普及し発展したが、女子のバスケットボールは、ミッション系の女子高で行われていた明治時代の〈3分割コート〉のバスケットボールから脱却して、大正時代に入り、学校体育として体育の授業にバスケットボールが採用されたことにより全国の女子高を中心に発展・普及していく歴史を歩むことになる。

明治から大正時代のキリスト教牧師、日本に於ける女子教育の開拓者の一人。第5代梅花女学校校長の時代に日本初となる「球技遊戯」（日本式バスケットボールの原型）を授業に採用、創立した日本女子大学校で体育の授業として「日本式バスケットボール」を行う。

シニアチーム紹介 STARS OF STARS

[普及部]

普及部では本誌紙面で全国のシニアチームを紹介しているが、今回は第7回目として“STARS OF STARS”の生い立ちや歴史などを篠原正邦チーム顧問から紹介して頂く。

STARS OF STARS

関東学生バスケットボールリーグの1部6チームで、1965年当時の4年生だったメンバーがもう一度バスケットボールをやろう、と言うことで始まったチームです。

ここで、当時の関東学生リーグの構成を紹介しておきます。リーグは、1部が東教(東京教育大学)、早慶(早稲田大学、慶応義塾大学)、日立明(日本大学、立教大学、明治大学)の6チーム、2部が6チーム、3部が4チームで編成されておりました。東京6大学野球の場合は6チームが固定されていますが、バスケットボールリーグは毎年の成績で各リーグの上位部の最下位チームと下位部の最上位チームが入れ替え戦を行い、編成替えが行われます。私どもが現役の頃の4年間は偶々同じ顔触れの6チームで、2部落ちしたチームは有りませんでした。

とは言え、最終学年の1965年のリーグ戦の結果に大変な危機的状況が有りました。それは、1部の最下位が慶応義塾大学、2部最上位チームが中央大学。この時の中央大学は、インターハイ連続優勝の中大杉並高の選手がそのまま大学に進学して3年生と4年生を占めていた、超強豪チームでした。慶応義塾大学が2部に転落するのではという不安が1部の6チームに走りました。そのため、特に各校申し合わせがあったわけではなく、入れ替え戦の当日は1部のチームは各校練習を早めに切り上げて、代々木第二体育館に応援に馳せ参じました。その結果かどうかは不明ですが、慶応義塾大学の2部陥落は免れました。

こんなことから自然に1部同士の強い絆が生まれていたのではないかと思います。

更に特筆すべきは、皆が大学3年時(1964年)に東京オリンピックが開催されました。

バスケットボールの日本代表12名の内、同期で、明治大学から江川嘉孝君と角田勝次君(故人)、日本大学から諸山文彦君、東京教育大学から小玉晃君の4名が選ばれたことです。この国際級の選手たちと4年間切磋琢磨できたことは私たちの誇りでもありました。

チーム設立の経緯

前述の「絆」と「誇り」や、社会人になってからの日本リーグ等での対戦経験から、卒業後もそれぞれの関係が続きました。その後、2003年に角田君のご尽力で、日本鉱業の施設で「還暦を祝う会」が開催されました。その時、慶応義塾大学出身の鈴木進吾君(故人)から「このメンバーで、もう一度バスケットをやりたいな」との発言がありました。しかし、残念ながら、その直後には特に積極的な動きは見られませんでした。具体的にチーム結成に動いたのは、その後、7年経過した2010年のことでした。その時は皆、既に67歳に達しておりました。



チーム名の由来

“STARS OF STARS”と鳥澁がましいチーム名を冠しておりますが、初代の STARS OF STARS は 1960 年代に慶応義塾大学のOBで社会人チームに所属していないメンバーが結成したチームだったそうです。そのチームは滅法強くて、当時の慶応義塾大学の現役チームをも負かす程の力を持っていたそうです。そんなことから、同大学のOB会からの勧告もあって廃部してしまったそうで、そのチーム名を、鈴木進吾が関係者から頂戴したものだそうです。

チームのスタート

我々のチームの発足は 2010 年 12 月 11 日です。13:30 から始まる練習に、旧今川中学校のうすら寒い体育館に集まったのは、小玉晃(東教)、木村勲(早)、鹿子木雅・鈴木進吾・前島康礼(慶)、諸山文彦(日)、奥田晃紀・篠原正邦(立)、江川嘉孝(明)の 9 名で、既にその時、7 名は 67 歳を超えておりました。

ここで、月に 2 回練習すること、出来たら 70 歳まで続けること、日本バスケットボール振興会が主催する交歓大会に出場すること、という三つのことが決められました。

その後、10 年の歩み

9 人でスタートはしたものの、出席率の問題もあり、練習で 5 対 5 が組めないことから、慶応義塾大学OGの銘苅光世さんの推薦で青山学院大学のOG 2 名、篠原の出身高校(甲府一高)の後輩 4 名等が参加して、やっと練習らしい練習が出来るようになりました。

迎えた初試合、第 4 回全国シニアバスケットボール交歓大会、2011 年 5 月 28 日、昔懐かしい国立競技場代々木第二体育館。6 分クォーターの 4 つのクォーター全て別チーム、つまり、クォーターごとに入れ替わり立ち代わり 4 チームが挑みかかってくると言う超変則試合でした。結果は 16 対 16 の引き分けと言う「ほろ苦い」ものでした。

試合の経験を経ると矢張り「昔取った杵柄」よろしく、次第に意欲が出てくるもので、練習も月 4 回に増やしたり、出場試合も関東シニアリーグ・関東シニアトーナメント・横浜カップ・酒田市八幡カップ・プラチナ戦(70 歳以上)と増えたり、それにふさわしいチームとしてのメンバー増強のために 50 歳代のチーム「RISING STARS」を編成したりで、2020 年 12 月 11 日に満 10 周年を迎えました。



2019 年交歓大会参加メンバー

10 年間の戦績

10 年間の戦績をチーム毎に、以下にまとめます。

- ・ STARS OF STARS : 115 試合、85 勝、26 敗、4 引分け、勝率 74%
- ・ RISING STARS : 8 試合、3 勝、5 敗、勝率 38%
- ・ PLATINUM : 8 試合、8 勝、0 敗、勝率 100%

(チーム顧問 篠原正邦)



バスケットボールコートが 現代社会の課題を解決する！

近藤 洋介

当社、株式会社インディペンデンスは、「バスケットボールレンタルコート ディーナゲッツ」の全国展開（直営店・フランチャイズ店）を行っているバスケットボールレンタルコート業界最大手・店舗数日本一（2021.5. 現在：国内7店舗・米国提携2拠点）の会社でございます。＜加盟：（一社）日米協会／（一社）日本ショッピングセンター協会＞

バスケットボールレンタルコート ディーナゲッツの誕生

「気軽に楽しくバスケがしたいのに、学校や公共施設以外にバスケができる環境が日本には無いなあ…」30年前の1992年、私はバスケットボールの母国「アメリカ合衆国」へ、当時の日本では大変珍しいバスケットボール留学（コロラド州デンバー／ボルダー）をしました。昼間は大学で勉強、夜はバスケをプレイし、チケットを買ってはハイスクールのバスケットゲーム観戦やNBA観戦などに、休日は街の中のバスケ大会に参加など、24時間寝ても起きてバスケットボールに明け暮れました。こうして、日本の高校時代（小中高でバスケ部所属）までは決して味わえなかったバスケットボールの楽しさを知りました。1995年に家業を継承する為に帰国すると、日本ではバスケを気軽に出来る場所が無く、僕は帰国と同時にバスケをやる場所を無くしてしまいました。

2006年のある日…、1枚のFAXが「バスケットボールレンタルコート ディーナゲッツ」を誕生させるきっかけとなりました。そのFAXは沖縄の知人からであり、「沖縄にプロバスケットボールチームができるらしい」という地元紙「琉球新報」の記事で、以前から「日本でバスケの本場である沖縄でバスケのクラブチームを作りたいね」と話をしていたので、その知人が気を利かせてくれたわけです。その後すぐにこの関係者とアポイントを取り、沖縄で後に琉球ゴールデンキングス運営会社の木村達郎 代表取締役GM（当時・現 代表取締役社長）とスタッフと面会、私は以後沖縄や様々なプロバスケットボールイベントに関わりを持ち、キングスの株主兼GM補佐（現在は株式売却・GM補佐退任済）としてチームの立ち上げメンバーとなり、bjリーグで4度のリーグ制覇を経験しました。沖縄では、今シーズンのチームがBリーグ1部で西地区4連覇を達成、そして本年3月には日本バスケットボール悲願であったバスケットボールをメインコンテンツとした10000人収容のアジア最新鋭アリーナ「沖縄アリーナ」が完成し、スポーツが地域の活性化に大きく役立つことを実証しております。

会員だより

本年から遡ること14年前の2007年3月、琉球ゴールデンキングスのbjリーグ参入決定記者会見でご縁をいただいた河内敏光氏（bjリーグコミッショナー）をbjリーグ銀座オフィスに訪ね、一人のバスケファンとしてお願いしました。「僕はアメリカから帰国して、バスケをやる場所を無くしました。是非bjリーグさんがチームを全国に拡大する際にバスケコートも増やして欲しいです。」と。すると「それは近藤さんがやったら良いですよ！」と・・・。「えっ？僕がやって良いのですか？」と尋ねたところ、「来週大阪にある日本で唯一の民間バスケコートに行くから一緒に行きませんか？」とお誘いをいただき、1週間後に大阪で民間経営されているバスケットボールコートを御紹介いただき視察しました。その時、今まで漠然と思い描いていたことが目に見える形に変わり、視察の翌日に私のホームタウンである愛知県の自宅近くに倉庫を見つけて賃貸契約を締結…これが「バスケットボールレンタルコート ディーナゲッツ」誕生の瞬間であり、2007年7月21日に愛知県一宮市にディーナゲッツ1号店が開業し、以降2021年4月末までに全国7店舗まで拡大しております。

もしbjリーグが無かったら、琉球ゴールデンキングスも沖縄アリーナも無かったですし、キングスの木村代表との御縁もありません。bjリーグ参入記者会見が無ければ、私は河内氏にお会いすることは無く、全国に最近で始めたバスケットボールレンタルコートも、我が「ディーナゲッツ」も存在していなかったと断言できます。

私のミドルネーム「ナゲッツ」の名付け親であるデιβ・ヤナイ氏との出会い

2007年にアメリカ・ロサンゼルスで、当社ロサンゼルスオフィスで長年に渡りお世話になっており、良き相談者であるパトリック丸目氏と、日本在住のコーチ陣の相談者である東山真氏の仲介で、伝説のコーチであるデιβ・ヤナイ氏とご縁をいただきました。東山真氏は2020年11月に発売されたNBAスーパースター、ステファン・カリー選手の本「ステフィン・カリー努力、努力、努力：自分を証明できるのは、自分だけ」の翻訳者でロサンゼルスハーバーカレッジバスケット



本人提供 デιβ・ヤナイ氏と

ボールチームアシスタントコーチです。コーチ・ヤナイは、全米でレジェンドコーチだけに贈られる「ジョン・ウッデンアワード」の2021年度受賞者になれた日系人初のNCAA所属チームヘッドコーチ（カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校 男子バスケットボールチーム）で、アメリカバスケットボール界の伝説コーチであります。そのコーチ・ヤナイに、当社のバスケットボール関連活動と、私がデンバー・ナゲッツの大ファンで、個人の夢としてナゲッツのマイノリティーオーナーを目指しているのを知っていただくこ

会員だより

とができました。その席でコーチ・ヤナイは、コロラドの人々が一度で名前を憶えてくれるだけではなく、ビジネス的にも「金塊」という意味なので縁起が良いという理由から、私のミドルネームを「ナゲット」と名付けてくださいました。

そしてバスケットボール界の新しいブランドとしてデイブ・ヤナイ氏の「D」と、私のミドルネーム「ナゲット」を掛け合わせて「ディーナゲッツ」(D-NUGGETS)を考案、二人が共通したのが「バスケットボールを誰もが楽しんで欲しい」という想いであることを確認しました。コーチ・ヤナイには、お名前をいただくことをその場で快諾、当社が2008年に設立したディーナゲッツ バスケットボールアカデミーの校長にもご就任いただき、校長からの全体コンセプトとプログラムをお預かりしており、現在は全国に650名が在籍するアカデミーに成長しております。

バスケットボールは「世界最大」のコミュニティーツールである

私は、中学受験で愛知県トップ3に入る進学校である滝学園（当時の理事長：滝富夫氏）の中学校に入学、小学生までは学年でも1、2位を争う成績でしたが、滝中では学年でいつも下から2番目が私の定位置。そして滝高校では生徒会長や文化祭、体育祭などの活動などに明け暮れ、勉強は相変わらずの嫌い、特に英語の授業は大嫌いでしたのでテストは赤点ばかりで英会話などできるはずがありません。母校は進学校であった為、慶応義塾大学を始め国内大学10校12学部を受験しましたが全て不合格・・・。

そこで私は、所属していた高校のチームが愛知県でベスト4や8に入る強豪校で私も3ポイントシューターであった為に、自分の力をバスケットの本場アメリカで試したいと考えました。親を説得しアメリカへバスケットボール留学、しかし英語は全く分からない、使えないのでどうなることやらと思いましたが、ロングシュートが少し他人より入るプレイヤーであった為に戦力とみなされました。

参加したゲームやコートでアメリカ人の友達が増え、またゲームの中で言葉を覚え、渡米3か月後には生活には困らない英会話力を身に付けることができ、今では英語を使って日本とアメリカ両国でビジネスをさせていただけるようにまでなることができました。これは間違いなく「バスケットボール」のおかげであり、母校である滝高校で「初」の海外大学進学者という歴史も作らせていただくこともできました。

英語が分からなくてもバスケットボールはアメリカ人や他の国の方たちと一緒に楽しめ、コミュニケーションも取ることができ、その結果友達が増え、英語も使えて世界が広がる・・・バスケットボールは世界4.5億人がプレイする世界最大のスポーツであり、バスケットボールは「世界最大」のコミュニティーツール。バスケットボールができればこれからの国際社会の中でも、日本の子供たちがどの国の人たちとも繋がっていけるコミュニティーツールであると、私は自分自身の実体験から信じており、我が「ディーナゲッツ」に通ってくれている日本の未来を作る子供たちに伝え続けております。

会員だより

自分が大好きな場所・・・NBAチームホームのアリーナは「街のコミュニティーセンター」

私はアメリカ留学時代、留学先がコロラド州デンバーであった為、地元にNBAチーム「デンバー・ナゲッツ」がありました。当時は弱小チーム（昨シーズンは10年ぶりの西地区決勝進出）でしたが、ホームアリーナには沢山のナゲッツファンが毎試合観戦に訪れていました。私はナゲッツ球団との自ら交流を図り、留学生であったにも関わらずコートサイド3列目のシーズンチケットホルダーの権利を球団から提供され2シーズンに渡りホームゲームを全試合観戦に行きました。しかし毎試合疑問に思っていたのは第1クォーター、第2クォーターになっても観客はまばらで、ハーフタイムが終わると会場内の観客が増え始めること……。ある日のゲームで第2クォーター中にアリーナコンコースに上がって、バースペースに居たアメリカ人の方に声をかけ、「何故ゲームが始まっているのに、中に入らないのですか？」と質問。その直後に私の考え方が大きく変わる答えが・・・「僕たちはナゲッツのゲームを観に来ているけど、ゲーム以上に友達に会いに来ているんだ」と。

私は頭をハンマーで殴られたぐらいの衝撃でした。日本人はどうしてもプロ野球でもJリーグでもBリーグでも最初から最後まで試合を観ないとチケット代を損する気がすると考えますが、アメリカ人は違った。「アリーナ」とは人に会いに来る場所であり、「街のコミュニティーセンター」なのだということを知り、同時に私は、バスケットをプレイしたり観ることも好きではあるけれど、人が集まる「アリーナ」が好きなのだと気がつかされ、アリーナが人種や国籍を含む街の様々な課題を解決しているのだと……。現在の「バスケットボールコート ディーナゲッツ」の創業や「現代版コミュニティーセンター」としての運営に大きく影響を与えている実体験、私のリアリティーであります。

「ディナゲッツ」は「現代版コミュニティーセンター」・・・現代社会の課題解決を！

私たちは施設を「現代版コミュニティーセンター」として運営しており、バスケットボールコート屋さんとはあまり考えておりません。中心的なコンテンツがたまたまバスケットボールコートであっただけです。「ディナゲッツ」がお客様の人生の1ページとなるような運営と、現代社会の課題解決を実施できる、地域に根ざした「街のコミュニティーセンター」であって欲しいと全店スタッフには常に話をしております。

それを証明できるものとして全店から毎月上がってくる「お客様のリアリティー」のごく一部をご紹介します。

- ・子供達が本当に楽しそうにバスケットをする。
- ・怒られないからいい。
- ・子供が運動嫌いでしたが少しは好きになりました。
- ・ディナゲッツのコーチに初めてバスケットを習い、今でもバスケット部です。
- ・私は78歳。ここに来ると元気がもらえる！
- ・生涯で初めての全国大会出場がディナゲッツの大会だった。

会員だより

- ・学生時代はバレーボールをやってきたが、ここでバスケの魅力に取り憑かれた。
- ・ディーナゲッツで知り合い、ディーナゲッツでバスケし、僕たちは結婚しました。
- ・バスケが久しぶりで楽しかった！バッシュを買いました。
- ・バスケが学校でできなくなりました。ここがあるから助かります。

また今年はバスケットボール生誕 130 周年の記念すべき年ということで、「ディーナゲッツ バスケットボール生誕 130 周年記念企画 第一弾」として4月からはU-3の創出の為、0歳から3歳までのお子様に「ディーナゲッツ」を月2回各2時間無料開放し、人生初のスポーツをバスケットボールにしていだける新たな社会活動「ディーナゲッツマイ・ファーストバスケットボールプロジェクト」がスタートしております。これが地域のお子様とお母様方に好評をいただいております、幼児がコロナ時代に安心安全に遊べる場所が少ない現代社会の課題を解決する一翼になり始めております。

ディーナゲッツのリアリティー・・・未来の日本代表候補富永啓生選手の輩出

2018年のウインターカップで大会得点王を獲得し、2019年よりN J C A Aのレンジャー・カレッジの進学、先日アメリカで開催されたN J C C A トーナメントではチームを全米ベスト4に導き、N J C C A オールトーナメントチームプレイヤーアワード、スポーツマンシップアワードの2つのタイトルを受賞、2021年秋からはN C A A 1部の強豪ネブラスカ大学へ編入する富永啓生選手・・・彼は8歳から「ディーナゲッツ」の愛知店に通い続け、ディーナゲッツのコンセプト「エンジョイ！バスケットボール！」の環境の中で8歳から7号ボールを使用し、常に大人や高校生たちと1 on 1 や3 on 3 で対戦しながら個人技（特にシュート力）が向上、アメリカでも活躍しながら現在は2



本人提供

富永啓生選手と

年後のN B A選手ドラフト候補、将来の日本代表候補に名を連ねており、「ディーナゲッツ」では同選手を「ディーナゲッツ応援基金」で活動費援助と帰国時の練習環境提供などを行っております。同選手の父親で元日本代表の啓之氏は昨年末のYahoo!東京オリンピック・パラリンピック関連記事の取材で、富永選手を屋外ではプレイさせたくなく、屋内コートである「ディーナゲッツ」には行きたいと富永選手が言っていたようで、啓之氏もそのような屋内の環境を与えたかったので本当に良い環境ができたと感謝している、とコメ

会員だより

ントしてくれており、他にも2名のBリーガーや強豪高校や大学へバスケットボール進学する選手たちなどを「ディーナゲッツ」は多数輩出し始めております。

ディーナゲッツのリアリティー・アメリカのバスケットボールと繋がるパートナーシップ

またアメリカでは、2015年11月、私の母校でNCAA1部のコロラド大学男子バスケットボールチーム（トッド・ボイルヘッドコーチ）のアジア担当スカウトに就任し、同時にコロラド大学バスケットボールプラクティスセンター（総工費175億円）利用も許可、2017年3月には米国ロサンゼルス（LA）のバスケットボール最先端トレーニング施設「SHOOT360」とも業務提携しており、アフターコロナにはアメリカでのトレーニングキャンプや交流事業の活動が再開されます。



本人提供 コロラド大ヘッドコーチ トッド・ボイル氏と

「いつでも、誰でも、一人でも、バスケができる！」場所創りと全国100店舗構想

1号店を2007年7月21日に愛知県一宮市に開業して以来、2号店を2010年10月18日に北海道札幌市に、3号店を2015年7月26日に伊丹空港（大阪国際空港）隣りに、4号店を2017年8月5日に「日本初」となる商業施設敷地内常勤スタッフ付常設屋外バスケットボールコートとして神奈川県横浜市港北区にある地域最大級ショッピングモール トレッサ横浜



本人提供 ディーナゲッツ三重（外観）

（トヨタ自動車㈱子会社運営）内に、5号店を2019年6月2日に愛知県名古屋市、6月16日岐阜県羽島市、7号店を2021年4月18日に三重県四日市市に開業し、「ディーナゲッツ」は常設型7店舗まで成長しており、バスケットボールレンタルコート業界で業界最大手、店舗数日本一を更新中でございます。また沖縄県と群馬県への「ディーナゲッツ」出店準備の為、本年1月1日付で沖縄県に沖縄県開業準備室を、3月1日付で群馬県に群馬県開業準備室を新設しております。

会員だより

当社は「ディーナゲッツ100ドリームプロジェクト～全国100店舗構想～」を掲げており、沢山の人たちに、好きなときに、好きな場所でバスケットボールが出来る、且つ気持ちの良い汗を流していただける環境を作ります。そして地域の方々に愛され、人と人との世代を超えて繋がっていきける「現代版コミュニティーセンター」として、これからも一つずつ大切に且つ確実に作って行き、現代社会の課題解決の一翼になりたいと考えております。そして近い将来「ディーナゲッツ」からバスケットボール日本代表選手やBリーガー、そしてNBAで活躍する日本人選手が生まれたら、私はとても嬉しいです。



本人提供 ディーナゲッツ三重（内観）

Let's Enjoy BASKETBALL !

バスケットボールレンタルコート ディーナゲッツ公式ホームページ
www.D-NUGGETS.com

株式会社インディペンデンス 代表取締役社長
バスケットボール親善大使／コミュニティープロデューサー
バスケットボールレンタルコート ディーナゲッツ コミッショナー
NCAA 1部 コロラド大学男子バスケットボールチーム アジア担当スカウト
滝高等学校 普通科卒（愛知県）／米国コロラド大学 ボルダー校 留学

近藤ナゲット洋介

高校籠球ふるさと記（熊本県編）

[事務局]

熊本県でバスケットボールが始まったのは大正末期から昭和の初めである。1924 年（大正 13 年）に旧制五高にバスケットボール部ができ、28 年には五高主催で近県の中学校《男子》の大会が開催され、29 年からは県下の小学校の大会が始まり、競技人口が急激に増えてきた。大戦中は中断されていたが、戦後間もない 45 年暮れには多田辰男や岩村敏夫ら熊本師範のOBが中心となって熊本籠球クラブ（以下「籠球ク」）を結成し、九州学院の体育館を使って練習を開始した。

47 年には山中大吉を会長、多田辰男を理事長に熊本県バスケットボール協会が設立された。この設立には山中正藤、岩村敏夫、稲津康彦（明治大学主将－籠球ク）、岩尾亨（東京体育専門学校－籠球ク）、古川昌弘（東京体育専門学校－籠球ク）等も参加し、立派な協会として船出した。手始めに、南九州地区のバスケットボールのレベルアップと懇親を兼ねて 47 年 8 月には熊本県協会の企画で鹿児島、宮崎、熊本三県の大会（現在の南九州大会）が開催された。その後 57 年第 11 回大会より大分県が参加して四県大会と名称を変えた。

このような歴史と伝統を誇る熊本県のバスケットボールであるが、本誌では 1948 年（昭和 23 年）頃から 1988 年（昭和 63 年）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の審判員や協会関係者にも焦点を当て、熊本県のバスケットボール界を通観してみた。内容的には熊本県バスケットボール協会創立 65 年史の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、学校名は最初を除き略称）



熊本県バスケットボール協会提供

先ずは男子であるが、大きくは 4 つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948 年～57 年）

インターハイには、九州学院が 4 回、熊本高校（熊高）が 2 回、玉名高校が 2 回、熊本工業（熊工）と済々黌高校が各 1 回、出場している。

この時期、活躍した選手では、佐藤（宇土 51－日体大－京都女子大教授－同大学バスケットボール部監督部長、関西女子学連会長）、小田（済々黌 54－明治大）、古閑（鹿本 56－日体大－熊本商大教授、熊本県協会理事長）、浮田（九州学院 56－日体大－相模工大付属高校監督－同校校長）、古野（九州学院 58－明治大－松下電器）らがいる。

第二期（1958～64 年）

九州学院と熊本商業の拮抗時代。インターハイには九州学院が 4 回、熊本商業が 3 回出場している。

この時期、活躍した選手では、藤本（九州学院 60－青学大－東京海上）、三重野（熊本商 60－日体大）、管林（玉名 60－早稲田大）、多比良（熊工 60－芝浦工大）、岡（熊本商 61－日体大－大分県教員－大分県理事長）、木村（九州学院 61－芝浦工大）、近藤（九州学院 62－日体大）、陳（九州学院 62－立教大）、長岡（済々黌 62－芝浦工大）、加藤（熊高－62－東京学芸大－熊本県教員）、斉藤（済々黌 63－芝浦工大）、津崎（済々黌 63－芝浦工大）、船台（九州学院 63－芝浦工大）、阪口（九州学院 64－芝浦工大）らがいる。

第三期（1965 年～77 年）

熊工が圧倒的な強さを誇っていた。インターハイには、熊工が 11 回、熊高と玉名工業が各 1 回、出場している。69 年の国体では、熊工・熊高・八代・玉名の混成チームでベスト 8 入りしている。

この時期の著名選手としては、森哲（熊工 68－明治大－住友金属：ミュンヘン《72》、モントリオール《76》両五輪大会の日本代表）がいる。熊高時代すでに 184 cm の長身選手でありながら俊敏な動きを持っており、インターハイの県決勝では 66 点、高校 3 年間の得点アベレージが 40 点超と“森台風”が吹き荒れて、相手チームにとっては脅威の存在になっていた。小学校時代は剣道をやっていて二段の腕前の持ち主でもある。弟の竜雄は熊工－明治大の後輩。

この時期、活躍した選手では、羽山（九州学院 66－青学大）、藤本（九州学院 66－芝浦工大）、河野（熊高 66－学習院大）、杉本（鎮西 66－日大－新座二中全国中学生大会優勝監督）、石井（済々黌 67－順天堂大）、白取（九州学院 67－芝浦工大－熊谷組）、徳永（山鹿 67－日体大－大妻女子大教授、日本学連副理事長、日本協会理事）、中村（九州学院 68－芝浦工大－熊谷組）、前田（九州学院 68－芝浦工大）、岩村（九州学院 68－関東学院大－熊谷組）、古賀（済々黌 68－順天堂大）、徳永（山鹿 68－日体大－大妻女子大部長・監督）、高木（玉名 69－東海大）、鶴田（八代 70－日体大）、前田（九州学院 71－日大－大和証券）、森（熊工 71－明治大－熊谷組）、橋口（熊高 71－学習院大）、江口（九州学院 72－青学大）、清原（済々黌 72－明治大）、末石（熊工 73－中京大－三菱電機）、石田（八代 73－東京経済大）、坂本（九州学院 74－福岡大－東芝）、大原（熊工 75－日体大－松下電器）、前原（熊工 75－日大）、瀬田（九州学院 75－福岡大－東芝）、岩下（済々黌 75－明治大）、藤林（熊工 76－日大－日本鉱業、三菱電機）、大原（熊工 76－日体大）、井上（九州学院 77－福岡大－東芝）、平井（九州学院 78－青学大）らがいる。

熊本といえば、岡山恭崇（やすたか）に触れておかねばならない。高校（九州学院）までは柔道をやっていたが、卒業（73）後、大商大に進学。名将、名伯楽で有名な監督の島田三郎に出会い、230 cm の長身を生かしたプレーで急成長。住友金属入社後、日本リーグや日本代表で活躍した。小学校卒業時にはすでに 181 cm、学校で一番であったが、リーダーシップもあり、学業も優秀なので学校内一番の人気者であった。中学から柔道を始め、柔道の名門、九州学院に進学、腕前は二段。入学時 196 cm の身長が卒業時には 206 cm になっていた。卒業時、多くの大学からスカウトされたが、大商大柔道部の監督から話を聞いたバスケットボール部の島田監督が岡山の下に熱心に通い、説得の結果、岡山もその熱意にうたれ、バスケットボールに転向する決意を下した。理路整然と受け

答えする岡山を見て「何年かかるかわからないが、将来必ず、日本バスケットボールボールの大黒柱になる可能性あり」と島田は見込んだわけである。

第四期（1978 年～88 年）

九州学院と熊工の拮抗時代。インターハイには九州学院が 5 回、熊工が 4 回、第二高校と東海大二高校が各 1 回出場している。82 年の鹿児島インターハイで熊工がベスト 8 入りしている。

この時期、活躍した選手では、山下（九州学院 81－青学大）、七々木（九州学院 83－関東学院大）、林田（熊工 83－拓殖大）、吉野（熊工 84－日体大：87 関東大学リーグで優秀選手賞）、後藤（九州学院 84－福岡大－熊谷組）、元田（熊本商大付属 84－早稲田大）、菊池（九州学院 86－日体大）、吉野（熊工 87－日本電装）、本田（熊工 87－大商大－日本電装）、阿南（九州学院 87－福岡大－日立本社）、濱松（熊工 88－大商大－いすゞ自動車）らがいる。

次に女子であるが、大きくは 4 つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948 年～56 年）

前半は、阿蘇高校と第一高校が競り合い、後半は、多良木高校、済々黌高校、松橋高校が台頭。インターハイには阿蘇が 3 回、第一が 2 回、多良木、済々黌、松橋が各 1 回出場している。

第二期（1957～65 年）

前半は熊本市立高校が、後半は尚絅高校が活躍、インターハイには熊本市立 3 回、尚絅が 6 回出場している。

この時期、活躍した選手では、福田（熊本市立 61－東女体大）、島村（尚絅－ニチボー平野）、田上（玉名－リッカーミシン）、上田（熊本市立－日本レイヨン）らがいる。

第三期（1966 年～78 年）

私立尚絅と松橋の両校が競い合う時代。尚絅が 6 回、松橋が 5 回インターハイに出場している。

この時期の著名選手としては、宮本輝子（松橋 71－ユニチカ山崎：日本リーグで活躍。全日本日本メンバーとして 75 年の世界選手権で準優勝、76 年のモントリオール五輪で第 5 位）、荒木恵子（宇土 74－共同石油：日本リーグで活躍、全日本メンバーとして女子アジア選手権、アジア女子競技会、世界選手権に出場）、豊田恭英子（尚絅 78－共同石油：全日本総合選手権で優勝 3 回、日本リーグで優勝 4 回《この間最高殊勲選手賞他受章》、全日本メンバーとしても活躍）がいる。

この時期、活躍した選手では、山下（玉名女子 67－日通）、西村（尚絅 68－倉紡枚方）、寺岡（尚絅 70－倉紡枚方）、黒瀬（尚絅 72－東女体大）、中村（尚絅 74－倉紡枚方）、菊地（尚絅 74－東芝）、本田（尚絅 74－シャンソン）、川口（牛深 76－三菱重工長崎）、川田（尚絅 77－日女体大）、竹本（熊本女子 78－日女体大）、豊田（尚絅 78－共同石油）、林田（宇土 79－日体大）らがいる。

第四期（1979 年～88 年）

私立熊本女子が圧倒的な強さを誇り、79 年のウインターカップでは第 4 位。85、86、88 年を除く 8 年間、インターハイに出場している。

この時期の著名選手としては、古財（熊本女子 82－ユニチカ山崎、全日本メンバーとして 86 年のアジア大会に出場）がいる。

この時期、活躍した選手では、浦田（熊本女子 80－ユニチカ山崎）、水元（熊本女子 80－中京女子大）、井芹（尚綱 82－日本電気）、坂口（熊本女子 86－日本電気）、高永（熊本女子 86－日女体大）、村中（熊本女子商業 87－三菱重工長崎）、野崎（熊本商業 87－日体大－東京銀行）、白石（熊本女子 88－富士通）、成瀬（済々黌 89－筑波大）、高橋（九州女学院 89－日女体大）らがいる。

時代は下がるが、著名選手としては、江口真紀（九州女学院 97－三洋電機－日立戸塚－シャンソン－三菱電機；特に日立戸塚－シャンソン時代に日本リーグで活躍、全日本メンバーとして 2004 年のアテネ五輪で第 10 位）がいる。

<コーチ・指導者>

- ・前田 築 58 年から熊本県教職員となり熊本高校・熊本工業高校・熊本第二高校・退職後熊本国府高校などの監督を歴任し、熊本工業では男子第三期記述の森哲を育て上げた。また、2001 年地元開催のインターハイで熊本国府高校を準優勝に導き、その年の全国高校選抜大会では、第 4 位と実績を残した。協会の理事長・副会長なども歴任し協会運営にも尽力した。
- ・片岡 昭文 56 年尚綱高等学校に勤務以来退職まで、高校女子の指導を続け、女子第三期記述の豊田恭英子を育てた。協会の理事長・会長なども歴任し協会運営にも尽力し、2013 年に文科省生涯スポーツ功労者表彰を受け、2015 年には長年のスポーツ振興の功に対し、「旭日単光章」を受賞。現在も大学女子の指導を続けている。
- ・平井 裕光（故人） 76 年 9 月から熊本女子高校をコーチとして指導、三線速攻を徹底的に行う中で、総力を養い、男子チームの協力を得て体力・体幹の強化を行う等々厳しい指導でその後の同校の輝かしい戦績の基礎を作った。79 年の全国高校選抜大会では第 4 位、87 年の北海道インターハイではベスト 8 の実績を残した。全日本女子・ユニチカ山崎監督の尾崎正敏の指導法に大きな影響を受けた。

熊本県出身で他県の高校のコーチ・指導者として活躍した人材も紹介しておきたい。

- ・浮田 剛 九州学院を 56 年に卒業、日体大卒業後、神奈川県相模工大付属高校に就職バスケットボール部の監督として数々の名選手を育て上げた。湘南工科大学付属高校校長

<審判員>

- ・藤堂 匡令（まさのり） 中学・高校時代を熊本で過ごし、49 年に九州学院を卒業、明治大に進学、プレーをやりながらレフリーにも注力、卒業後は大学リーグ戦などで本格的に笛を吹き始めた。国際審判員、日本協会審判部長としても活躍。

<協会関係者>

- ・山中 大吉（故人） 23 年弁護士として開業。47 年～51 年 熊本県議会議員。47 年から 89 年まで会長として県協会をリードしてきた。89 年より名誉会長
- ・山中 正藤（故人） 49 年から 52 年まで兄の大吉を理事長としてサポートしてきた。
- ・岩村 敏夫（故人） 戦後すぐの 20 年に初代理事長の多田とともに熊本師範OBとして熊本籠球クラブを創設、その後のバスケットボール界の発展の基礎を作った。
- ・古川 昌弘（故人） 37 年に熊本師範学校入学、県代表として 3 回、明治神宮大会に出場、42 年に卒業後、東京体育専門学校（現在の筑波大）に進学、軍籍を経 47 年に第五高等学校に着任。熊本県バスケットボール協会発足に尽力、自身も理事として参画。58 年から 73 年まで理事長として地元で開催のインターハイや国体の運営に尽力。64 年の東京オリンピックには競技委員として参加。65、66 年には日本協会の理事としても活躍。
- ・古閑 広登（故人） 鹿本高校を 56 年に卒業、日体大に進学、卒業後、地元に戻り、熊本商大で教授を務める傍ら、74 年から 80 年まで理事長を務めた、
- ・鬼木 泰博 53 年に熊高を卒業、鹿児島大学医学部に進学、整形外科医として活躍する傍ら、県バスケットボール協会の理事、理事長（81 年から 89 年、その後、副会長、会長、日本協会の評議員も務める）として参画、その発展に尽力した。熊本回生会病院の会長。2007 年に文科省生涯スポーツ功労者表彰を受け、2008 年には長年のスポーツ振興の功に対し、「旭日双光章」を受賞。因みに次男の鬼木泰成医師はプロバスケットボールチームの熊本ヴォルターズのチームドクターを担当している。
- ・山中大吉会長・多田辰男理事長 1947～48 年
- ・山中大吉会長・山中正藤理事長 1949～52 年
- ・山中大吉会長・岩村敏夫理事長 1953～57 年
- ・山中大吉会長・古川昌弘理事長 1958～73 年
- ・山中大吉会長・古閑広登理事長 1974～80 年
- ・山中大吉会長・鬼木泰博理事長 1981～89 年

<その他>

・鶴屋百貨店

本稿は、戦後の昭和時代、都道府県ごとに当時活躍した高校を切り口に、活躍した選手、それを指導した監督・コーチ、これらを支えた協会関係者や審判に焦点を当てることを目的としているが、熊本県のバスケットボールを語るには、鶴屋百貨店（以下鶴屋と略称）女子バスケットボール部にも触れておかねばならないであろう。そこには、鶴屋経営者、バスケットボール関係者、女子選手それぞれが織り成す熱い人間模様があり、熊本県のバスケットボール発展の歴史の真髄をそこに垣間見ることができるからである。

鶴屋は熊本市に本社を置く地元の名門百貨店であり、女子バスケットボール部は 1954 年創部である。1960 年の熊本国体成年女子バスケットボール強化のため、熊本高校（以下熊高）のチームメイトであった今村勉と鬼木泰博（後の県バスケットボール協会長）が当時の鶴屋社長の犬谷義隆と交渉し、チーム強化が実現した。初代部長は済々黌高校出身の林田又喜で、初代監督は上記、今村、鬼木の熊高のチームメイトであった熊本市役所の武蔵辰雄が務めた。54 年に熊高から東京教育大に進学、58 年に新任教師で天草高校に赴任した木原雄治が、同時に鶴屋バスケットボール部の監督を武蔵から引き継ぎ、以降 87 年まで通算 22 年間（61 年から 69 年は熊高赴任）、チームの指揮を執り、同部の第一期黄金時代を築いた。その後、バブル期を迎え、チームは低迷したが、木原の熊高時代の教え子である橋口誠が監督を木原から引き継ぎ、チームの存続に尽力した。やがて、県の成年女子のバスケットボールの復興に向けて 木原が鶴屋の会長、社長、更には県協会の鬼木会長、加藤理事長と話し合い、99 年の第二回熊本国体に向け、鶴屋は成年女子強化チームとして指定されることになった。

そこで、成年女子チームの監督（同時に鶴屋のコーチに就任）に、中学校女子を指導して全日本レベルで活躍した皆本秀一郎を迎え、第一期補強選手として矢野春代（熊本商業 90 卒－熊本短大－日本通運）、村上好美（熊本商業 91 卒）、鹿毛（カゲ）美智子（福岡県中村学園高校 92 卒－日体大）を指名、この 3 人が中心となり、チームを引っ張り、その努力が実り、99 年の熊本国体で優勝を飾った。

その後もチームの活躍は続いているが、その戦績の一端を以下に記しておく。
全日本社会人選手権（1 回）、全日本実業団競技 大会（4 回）、全日本実業団選手権大会（2 回）で優勝を飾る。（カッコ内は 2012 年までの優勝回数）

鶴屋女子バスケットボール部の選手のほとんどは地元高校出身であり、選手引退後も、多くが鶴屋で働いている。チーム創設時から地域貢献活動にも熱心に取り組み、そんな姿から、熊本県のバスケットボールに取り組む少女達の憧れの的であり、県民の誇りにもなっている。熊本県の女子ミニバスケットボールの加盟チーム数、登録選手数ともに全国有数を誇っているが、まさにこのことを物語っているといっても過言ではない。

【編集後記】

今回、熊本県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理に当たり、熊本県バスケットボール協会様には多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

訃 報

藤野 英雄 氏 令和3年3月11日 享年 87

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。
ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。



「藤野英雄」さんを偲んで

兒玉 幸長

京都バスケット界の巨星が今年3月に逝去されました。

英雄さんのお父さんは京都バスケットの創始者の一人で、戦後、全国に先駆けて京都協会を復活された京都協会第5代会長「藤野弥一郎」さん。藤野英雄さんは、お父さんの意を継いでクラブバスケット一筋に京都をはじめ近畿、全国のバスケットボール発展の為に多大なご貢献をされた京都が誇るバスケット人です。

私と最初に出会ったのは、昭和48年の実連役員会で藤野さんは「京都市消防局」、私は「京都府庁」の代表で、二人とも実業団チームの選手でした。

以来、藤野さんは実連だけでは「これからのバスケットは発展しない」と日頃から話しておられ、誰もが参加できる「クラブ」に注目されていました。

藤野さんは、当時10年程前から「京都高校OBOG大会」を主催されており、その経験から「高校でバスケし、大学生や社会人になってもバスケしたい奴が沢山いる、受け皿がクラブや」、「クラブ連盟を立ち上げたい」と私を絶えず誘われていました。

そして昭和49年、実連からクラブを独立させ、「京都府クラブバスケットボール連盟」を設立、全国のクラブ先進県の仲間入りを果たし、藤野理事長、兒玉副理事長体制で京都のクラブバスケットボールが始まりました。

翌年には、近畿各府県に「クラブ連盟設立」を働きかけ、自ら理事長として「近畿クラブバスケットボール連盟(会長「大倉敬一」：月桂冠社長)」を立ち上げられました。

また、昭和54年には当時の日本協会専務理事で京都協会会長でもあった「遊津孟」氏のご尽力もあり京都で開催された「全日本クラブ選手権大会」の場において「日本クラブバスケットボール連盟」設立を果たされました。

日本クラブ連盟では、副理事長、副会長としてクラブ黎明期から長年にわたり日本のクラブバスケットの発展に大きく貢献されたことは皆様ご承知のとおりです。

その間、京都協会の中でも「クラブ連盟」の存在感は増し、藤野さんも私も協会の重職を任され、その後二人は近畿、全国のバスケット界に関わることとなります。

約半世紀の間、バスケットを通じて「藤野英雄」という人間の生き様、考え方等、本当

にいろいろ教えていただきました、公務員という共通点の中で「仕事放つたらかしてバスケットばかりやるバスケットバカになったらアカン、仕事も一流、バスケットもやる、これを目指せ」とよくご指導いただきました。

仕事でも藤野さんは「消防局長」になられ、私も「京都府の部・局長そして向日市の副市長」を努めることができました。

昨年6月、私の「日本協会副会長」「京都府協会会長」退任の際、コロナ渦の中でもあり慰労会と称して藤野さんと二人きりで飲んだのが最後になりました。その席で「お互いよく頑張った、仕事もバスケットも」と話されていたことが忘れられません。

今、就職先にチームがなくても大学でクラブに入らなくても「社会人連盟」に登録すればバスケットができます、藤野さんの「バスケットが好きな奴にバスケットの場を」この精神が正に開花した日本のバスケット界です。

藤野英雄さん「ありがとう、合掌」。

[京都府バスケットボール協会前会長]

追悼文 藤野 英雄 様

蒲田 尚史

「蒲田さん、日本のバスケットボールを強くするには、もっと多くの子供たちがバスケットに馴染んでスポーツとして楽しんで貰うこと。バスケットに関心を持って貰うには、Wリーグや地元のBリーグで活躍している選手のことを取りあげるのが、一番の近道だと思いますよ」

当会が今、取り組んでいる「高校籠球ふるさと記」を活用して、子供たちに地元愛とバスケットへの関心を持って貰おうとの試みに対するご意見。ずばり本質を突いた京都人らしからぬ率直なコメントに「この方は心底、日本のバスケットの発展を願っておられるのだ」と感服したことが思い出される。当会が取り組む京都市中学生初心者クリニックでは、振興会会員として用意周到かつきめ細やかな対応でご協力頂き、実施日には、必ずお顔を出して頂いた。

藤野英雄さんは昭和8年京都市生まれ、地元の名門、鴨沂高校から同志社大学に進学、就職された京都市役所では消防局長まで勤めあげられた。御父上の藤野弥一郎氏は京都のバスケットの発展の中心的な役割を果たされた方であるが、その意思を受け継ぎ、京都府バスケットボール協会副会長として京都のバスケットの発展に貢献されただけでなく、昭和54年には京都府クラブバスケットボール連盟理事長として、その後、全国クラブ連盟の常任理事や副理事長として同連盟の発展に多大な貢献をされたことは、誰もが知るところ。

「蒲田さん、高校に進学、バスケット部に入部したが、練習に付いていけず退部、でも、バスケットを続けたい、そんな高校生のための受け皿を作ってやることも必要やと思いませんか」

ご一緒した京のおばんざい屋で、ふと漏らされたやさしさに溢れる語り口も忘れられない。

思い出は尽きないが、藤野さんから頂いた数々のアドバイスをかみしめ、バスケットボール普及のために、微力ながら、全力を尽くすことをご霊前にお誓いしたい。

「藤野さん、本当にお世話になり、ありがとうございました」 合掌

[副理事長]

事務局だより

[事務局]

◇ NHKに協力

NHKの番組映像発掘・保存事業に協力しています。振興会が保存しているテープ・DVDをNHKに提供し、アーカイブス保存作業を行うものです。アーカイブスへ登録されたものは、「NHKアーカイブス」で公開されます。

◇ (株)インディペンデンスを紹介

全国にバスケットボールのレンタル事業を展開している(株)インディペンデンス代表の近藤洋介さんを「会員だより」を介して紹介しました。好きな場所でバスケットボールをする環境を多くの人に提供する事業がこれからも広がることと大いに期待されます。

◇ 会員・部員の募集

皆様の周囲の方々を振興会会員にお誘いいただきたくお願いします。振興会紹介パンフレットはホームページから得られます。もしくは、事務局にお問い合わせください。会員の方、振興会の仕事にご参加下さい。ご自分で新しい仕事をされても結構です。できれば何かの仕事に必要な知識をお持ち、パソコン操作が得意、などの方は歓迎です。手持ち無沙汰な方は事務局までお声かけください。事務局では大歓迎です。

◇ 会費納入のお願い 会費未納の方をお願いします。

振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、早めの納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行 00100-3-316035
NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通預金口座 1684743
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行 丸の内中央支店 普通預金口座 1004687
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ こぼればなし

- ◇ **3×3 女子日本代表**は、東京 2020 オリンピックの出場 8 チームの 7 枠目を確保した。バスケットボール競技の中で唯一、開催国枠として出場権を付与されなかった **3×3 女子日本代表**が 5 月 26 日からオーストリア・グラーツで始まったオリンピック予選 2021 で最終 31 日の 3 位決定戦を制し、ハンガリーで開催の 8 枠目選考会を待たずに出場を決めた。
8 枠目には 6 月 4 日～6 日にイタリアが勝利した。その結果、出場チームは、ロシア、中国、モンゴル、ルーマニア、アメリカ、フランス、**日本**、イタリア。
ちなみに、男子の出場チームは、セルビア、ロシア、中国、**日本**、ポーランド、オランダ、ラトビア、ベルギーの 8 チーム。
- ◇ **B リーグのトップを決める、2020-2021 B 1 チャンピオンシップ (C S)** では、千葉ジェッツ (東地区 2 位) が宇都宮ブレックス (東地区 1 位) と 1 勝 1 敗の後、決勝最終日 6 月 1 日に大接戦を制して初優勝した。ゲームはお互いに激しいディフェンスを展開、第 4 クォーター残り 2 分で 61-60 の競り合いから千葉ジェッツが終盤のフリースローを確実に決めて抜け出して 71-62 で優勝した。
この試合は、厳しいディフェンスとリバウンドの争いで、ロースコアながら久しぶりにバスケットボールの本質を味わうことができた好ゲームであった。
- ◇ **ジャパンバスケットボールスタンダード (J B S)** が、J B Aにより 2016 年に発表されスタートして 4 年たったいま、2024 年のパリオリンピックとその先の 2030 年くらいまでの姿に向けて改定を検討しているとのこと。現状、2022 年 3 月までの「第 2 期スポーツ基本法」の内容は「一億総スポーツ社会の実現」を目標にしている。日本のバスケットボールの将来を見据えた次の J B Sを早急に施策していただきたい。
- ◇ **2020 年の F I B A 殿堂入りのメンバー**を国際バスケットボール連盟 (F I B A) は 3 月 30 日に発表。その一人に男子日本代表として活躍した佐古賢一氏 (50) が選ばれた。日本人としては、2007 年、貢献者枠で選ばれた植田義己氏 (2007) 以来 2 人目。
- ◇ **谷口正朋さん**、ミュンヘンオリンピックの得点王が 5 月 3 日に逝去 (享年 75)。中大杉並高、中央大、日本鋼管に所属して活躍。引退後は日本代表のコーチ、日本協会専務理事などを歴任。日本を代表する不世出の左利き名シューター。心からご冥福をお祈りします。

N P O 法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／F A X (03) 3219-9311
メール contact@jbbs.jp
